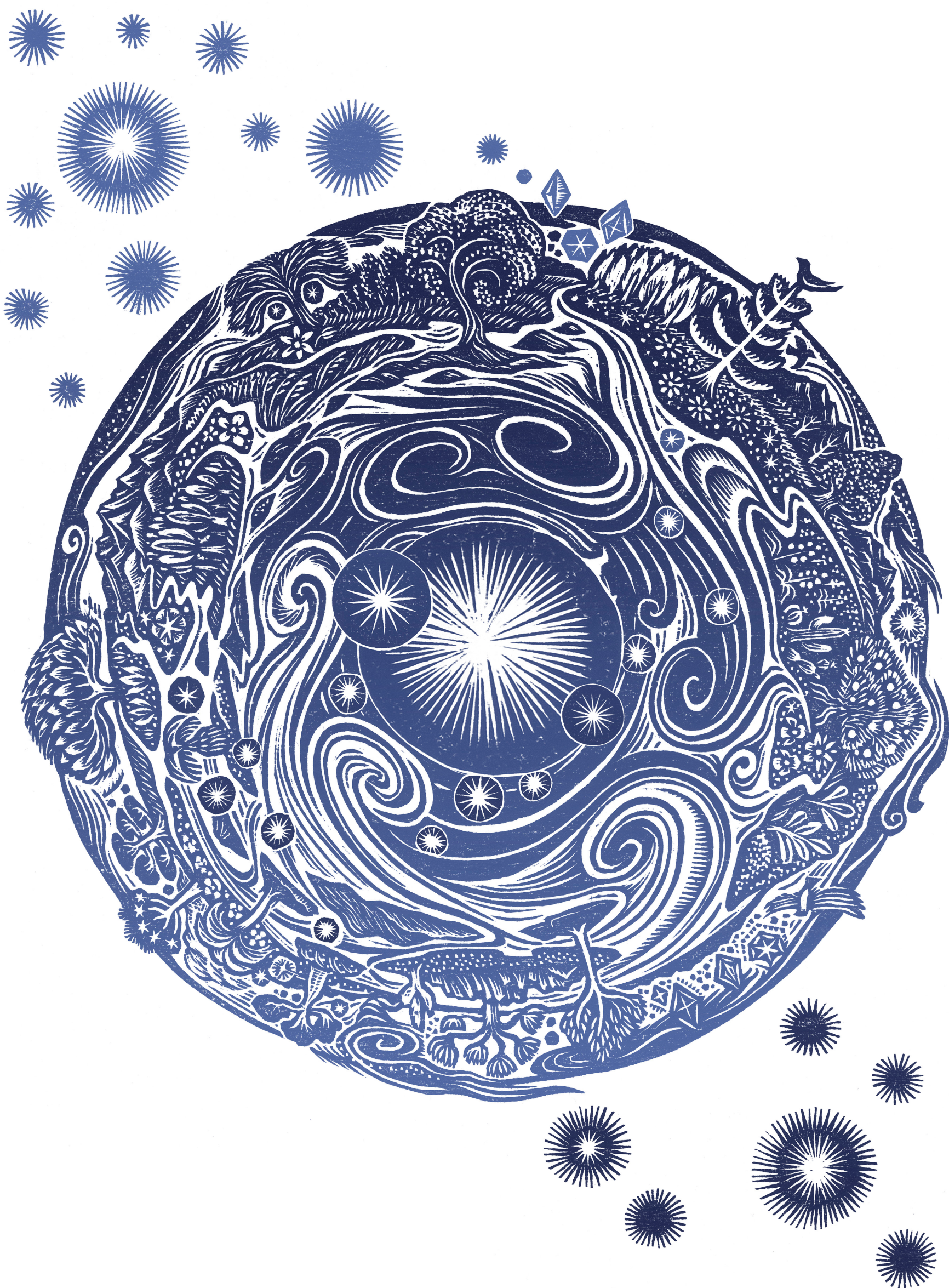


木と生きる幸福



地球に森をつくる。
それが、林業という仕事です。



国土の約7割を森林が占める国、日本。
人々は木に親しみ、森とともに生きてきました。

しかし現在、日本の森林を見渡してみると、
戦後、人が植えた木が適切に管理されずに放置されて、
山が荒れ、生態系のバランスが崩れたり、
災害時のリスクを高めたりしています。

木は、植えたら、それで終わりではありません。
人がつくった森林は、

継続的に手を入れてこそすこやかに保たれるのです。
木は、成長するときに二酸化炭素を吸収し、固定します。

だから、成長した木を伐り、また新たな苗を植えて、育てる。
適切な伐採と植林を繰り返し、森に循環を生み出すことは、
地球温暖化の抑制にもつながっていく。

森林の健全なサイクルを回して地球環境に貢献する、
サステナブルな営みに根ざした産業、それが林業です。
森林をつくり、木材を活用し、地域経済にも貢献することで、
人と木、人と自然が共存していくための、
理想的な関係が築かれます。

住友林業は、時を重ねることで価値を増すものを
「時間財」と呼んでいます。

森林は、次の世代へと伝えるべきかけがえない財産。
生物多様性の宝庫である原生林など、手付かずの美しい森も、
人が手を入れ育んできた、暮らしとともにある森も。
永い時間をかけて、護り、未来へと引き継いでいく。
それこそが、住友林業が全力で取り組むべき仕事です。

日本国内はもちろん、広く世界中で。
この地球に、ひとつでも豊かな森を。

住友林業 代表取締役社長

市川晃